RITSUMEIKAN UNIVERSITY

立命館大学大学院

教職研究科

実践教育専攻

教職大学院

2022

Graduate School of Professional Teacher Education

Major in Teaching Profession and Educational Practices

連携機関

京都府教育委員会 | 京都市教育委員会 | 滋賀県教育委員会 | 大阪府教育委員会 | 大阪市教育委員会

立命館大学の
教員養成と教職研究科

立命館大学では「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」を教学理念としています。この建学の精神と教学理念に基づいた、総合大学としての多様で、高度な学びを活かした教員養成に取り組んでいます。立命館大学が目指してきたものは、国際性・人間性豊かな教養人としての資質と専門職業人としての能力を備えた教員の養成です。

教育系学部を設置していない立命館大学ですが、教員養成分野では、全国の私立大学の中でトップクラスの実績を積み重ねており、これまで全国各地に数千名の教員を輩出してきました。最近では、毎年、300名近くの正規採用教員を輩出しています。

立命館大学では、1993年に全国に先駆けて「教職センター」（現在は教職支援センター）を設立し、教職を志望する学生のサポート面も充実しています。また、2006年には「立命館学校教育研究会」を設立し、立命館の校友教職員をはじめ、教育活動に関わる方々を会員として、教育実践の交流や最新テーマについての講演会など、現職教員への学びの場も提供してきました。

このような立命館大学の教員養成の実績と到達点を土台として、さらに、大学院レベルでの教員養成の充実をはかるために、2017年4月に大学院教職研究科（教職大学院）を開設しました。スーパーグローバル大学に認定された総合大学の特色を活かし、府県を超えた5つの教育委員会や立命館学園の附属校と密接に連携することによって、立命館大学大学院教職研究科（教職大学院）は、全国に例のない特色ある教職大学院として展開しています。

独立行政法人教職員支援機構
立命館大学センターの開設と
教職研究科

2019年8月に、独立行政法人教職員支援機構立命館大学センターが開設されました。茨城県つくば市に拠点を置く、全国の教員研修の中核を担う組織が、独立行政法人教職員支援機構ですが、立命館大学センターは、同機構の近畿地区の拠点となります。教職研究科が連携する京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市教育委員会や各総合教育センター、立命館学園の附属校とともに、高度な教員研修プログラムの開発と実施に取り組んでいます。教職研究科院生は、立命館大学センターの実施する最先端の教員研修プログラムにも参加することが可能です。

ごあいさつ

立命館大学大学院
教職研究科研究科長

森田 真樹

立命館大学大学院教職研究科は、2017年4月、西日本の私立大学単独としては初めての教職大学院として開設されました。京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市と、府県を超える5つの教育委員会の連携協力によって運営される教職大学院であることも全国で初めての試みです。さらに、教育学部を母体としない独立研究科であるため、開放制教員養成を重視し、一般学部からの進学者が多いことを前提に設計していることも本研究科の大きな特長です。

2019年には、独立行政法人教職員支援機構の近畿地区の拠点としての役割を担う、独立行政法人教職員支援機構立命館大学センターを本研究科に開設しました。各教育委員会と連携しながら、高度な教員研修プログラムを開発・実施していますが、本研究科院生は、教員研修プログラムにも参加することができ、学びをさらに深めることができます。

近年のコロナ禍によって、学校教育の「当たり前」を改めて問い直すことが求められています。また、いじめや不登校など複雑化・深刻化する教育課題、「令和の日本型学校教育」の構築、グローバル化への対応など、厳しい課題と急速な学校教育の変化に対峙するために、教職大学院でより専門的に学ぶことは、これからの教師には必須となるでしょう。そこでは、教育における不易と流行を見定め、不易の中に流行を組み入れることができる知見を見いだしながら、各教員が「個」としての資質能力を高めるだけではなく、「チーム」や「学校」として対応できる資質能力を獲得することが不可欠となります。

立命館学園の建学の精神である「自由と清新」、教学理念である「平和と民主主義」を体現し、立命館憲章に掲げられている「確かな学力の上に、豊かな個性を開花させ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める」という理念は、立命館大学の教員養成の理念でもあります。このような理念のもと、本研究科は、16学部22研究科を有し、スーパーグローバル大学に選定されている総合大学の教育資源を最大限に活用して、 教育の本質を見極めながら、新しい教育課題に対応し、「学校」のチーム力を高めることができる資質能力をもった教員の育成を目指します。

私立大学として全国有数の教員養成の実績をもつ本学が、教員養成・現職研修の高度化という要請に応えることは社会的使命でもあります。本研究科では、学部新卒院生には、自らが「地球市民」として活躍できる人間を志し、より高い資質能力をもった教員となるための指導・支援を充実させ、進路実現を図ります。また、現職教員院生には、これまでの実践を対象化し、理論と実践の往還・融合を図る主体としての力量を高め、多様な教育実践を組織的にマネジメントしていく方策を検討するための学びの場を提供します。

本研究科における協同の学びを通して、授業や学校づくりを担うチームのリーダーが育っていくことを期待しています。

教職研究科（教職大学院）は
教員養成分野の専門職大学院です。

学校現場は、いじめや不登校などの複雑化・深刻化する教育課題への対応、「主体的・対話的で深い学び」を実現する新しい発想での授業の実施、グローバル化課題への対応など急速な変化の中にあります。このような状況で教員にはより一層の高い指導力、実践力が求められており、その力を高めていくのが今後の教員養成・現職研修の中核を担うとされている教職大学院です。
教職研究科では大学院での授業に加えて、教育機関へのフィールドワークや長期の実習を行います。理論と実践を往還する学びが行われる授業や実習を通して、教員としてのより高度な資質能力を獲得することができます。

連携機関からのごあいさつ

**京都府
教育委員会**

現在、学校現場における教育課題は、複雑化・多様化しており、教員には、児童生徒に確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、児童生徒一人一人の自主性や個性を尊重しながら、使命感と責任感を持って職務に励むことを期待されています。立命館大学大学院教職研究科におかれては、総合大学の多様な学びの環境を活かした教学の展開など、先進的な取組を進めておられるところであり、今後も、より高い専門性・資質能力を備えた教員の育成を図られることを期待しております。

**京都市
教育委員会**

立命館大学では、国際性・人間性豊かな教養人としての資質と専門職業人としての能力を備えた教員の養成を目指し、平成２９年に、西日本の私学で初となる教職大学院を開設されました。
教職大学院には「理論と実践の往還」の手法を活用し、学校現場における様々な教育課題の解決に向けて、より重要な役割を担っていただくことが期待されています。京都市教育委員会といたしましても、貴学との連携・協力を進め、教員養成・現職教育の充実及び本市教育の発展に向け、努力してまいります。

**滋賀県
教育委員会**

滋賀県では、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」の基本目標のもと、子どもの力を引き出し、「夢と生きる力」を育むため、研修内容の充実や優秀で意欲のある人材の確保等、教職員の指導力向上を目指しています。社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を身に付けた立命館大学教職大学院で学んだ教員の教育現場での活躍に期待しています。

**大阪府
教育委員会**

大阪府ではこの間、経験豊富な教員の大量退職が続く中、特に経験年数の少ない教員一人ひとりの資質向上をいかにして図っていくかが課題となっています。
貴学では、「確かな学力の上に、豊かな個性を開花させ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める」という理念の実現に向けて力を尽くしておられます。今後とも、『学校』のチーム力を高めていくことができる教員の育成に努めていただきたく思います。

**大阪市
教育委員会**

大阪市は、こどもの貧困、急増する外国籍児童生徒への対応、学力課題や不登校の増加など、多様な課題をもっており、教員が幅広い知識をもち、実践に活かす資質能力が求められています。
立命館大学教職大学院は、臨床教育やグローバル教育など、現代的な課題に対応した学問領域が特色となっております。理論と実践を往還する学びをとおして、より高度な実践的指導力が養われることを大いに期待しています。

教職研究科の３つのポリシー

Diploma Policy

学位授与の方針

教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会的に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。これを具体化するために設定した、以下のような教育目標は、編成されたカリキュラムの各科目を履修し、本学教職研究科が定める修了要件に達することにより修得されたとみなし、これをもって教職修士（専門職）の学位を授与する。

- 学習指導、生徒指導の両者について、バランスの取れた指導理論と実践力を獲得している。
- 総合大学での学びを生かし、高い教科指導力と教科の専門性とともに、国際的に通用する課題解決型の教育実践力を獲得している。
- 教育をめぐる激しい変化の中で生じる新しい教育課題に対応できる能力を獲得している。
- 学級経営・学校経営の課題を組織の中で協働して解決に導ける力量を備え、新しい学校づくりの中核を担うリーダーとしての能力を獲得している。

Curriculum Policy

教育課程編成・実施の方針

- 共通科目（基本科目）については、「共通基本科目」として区分し、原則として、学部新卒院生、現職教員院生が共通に学ぶこととする。しかし、両者の獲得している資質能力が異なる領域については、一部、別科目、別クラスを配置するなど、両者のニーズに対応する工夫を行う。また、学校現場や関連施設でのフィールドワークを組み入れて、理論と実践の往還を可能とする科目を配置する。
- 教員としての総合的な力量を形成するため、特に若手・中堅教員に求められる、授業力、生徒指導力、学級経営力、学校マネジメント力などを育成する「共通基本科目」を配置し、コース科目でさらに深い学びが展開できるような科目を配置する。
- 立命館の特色を活かした「臨床教育」「教育方法・学習科学」「国際教育」の3コース（履修モデルとしてのコース）を設定し、それぞれの領域での高度な力量を獲得させる科目を配置する。
- 現場との深い関わりの中で実践的に学ぶ、充実した「学校における実習科目」を配置する。「学校における実習科目」は、「専門実習科目」として配置し、当該科目を教学の主要な柱として、学校現場での授業実践や授業担当以外の担任業務、生徒指導、特別活動等の実践と、その振り返りを組み合わせて展開する。

Admission Policy

入学者受け入れの方針

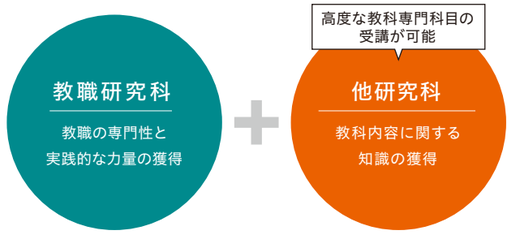
教職研究科は、学士課程における教員養成教育や教育現場での実践経験に基づき、教育活動に関する実践知の科学化と理論知の実践化について学際的に追究することにより、教育と学習の価値的な意義を深く理解し、社会に要請される教育的課題に応える高度な専門的知識と実践的指導力を有するとともに、平和と民主主義の精神、地球市民としての資質を持った、人間力のある教育実践者の養成を目的とする。そのため、教職への深い理解と基本的実践力を備えた、次のような条件を満たす人材を求める。

- 学部での教職の学びを通して、教員としての基礎的知識や指導力をもち、さらに、教員としてより高い指導力、専門性、実践力を身につけたいという高い意欲と熱意をもっている学生。
- 大きく変化する教育の中で活躍する教員として、新たな教育課題に対応していく力を、「理論と実践の往還」をはかる中で身につけたいという高い意欲をもった学生。
- 教科指導、生徒指導、学級経営、学校経営などの課題を組織の中で協働して解決に導ける基本的力量を備え、新しい学校づくりの若手リーダー教員を目指す学生。
- 教職経験の中で培った力量を、総合的にさらに高度化し、協働して取り組む新しい学校づくりの中核を担うリーダー教員を目指す現職教員。

教職研究科の5つの特長

1・総合大学の多様な学びの環境を活かした教学展開

教職研究科では、16学部、21研究科を有する私立総合大学としての強みを活かして、大学内の豊かな教育資源を活用した総合的教員養成を展開します。教員採用に高い実績を誇る充実した教員養成教育と教職支援、他研究科での高度で専門的な学び、研究科を横断する各種プログラム、スーパーグローバル大学としてのグローバル化展開など、立命館大学全体の教育力を活かしながら、充実した教学を展開します。



2・3コースからの教育課題へのアプローチ

立命館大学の特色を活かした「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3つのコース（履修モデル）を設定しています。院生は各自の課題認識に応じて入学後にいずれかのコースを選択し、それぞれのコースでより高度な力量を獲得することを目指します。他方で、特定の学習領域にとらわれない「共通基本科目」や、「コース共通科目」などの幅広い学びを通して、各自の得意分野の資質能力と、教員として必要とされる総合的な資質能力の両方を向上することができます。

臨床教育

- 多様化する児童生徒の諸課題（いじめ、不登校、発達障害、児童虐待、少年事件等）の本質をとらえ、関係機関と連携した課題解決の方法や、思春期・青年期の児童生徒の理解と支援のあり方などに関して、実践的・理論的に探究していきます。関係機関と連携した保護者支援のネットワークのあり方などにも目を配りながら、学校、家庭、地域社会などをフィールドとして、臨床教育領域の諸課題について、幅広く検討していきます。
- 教育と人間形成への理解を深めながら、児童生徒の発達課題への知見を踏まえた生徒指導・教育相談、教師と児童生徒間関係、保護者支援などに関して、深い理解と高い指導力の獲得を目指します。

教育方法・学習科学

- 「学習」「学び」を多角的に分析し、より高度な教育実践のあり方を探究します。
- PBL※1、反転授業、アクティブ・ラーニングなどの双方向での協働的な学びや適切な評価方法を探究します。
- 「学習」「学び」を科学的に解明し、理論的枠組みに基づいた新しい教育実践に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。

※1 PBL：Project Based Learningの略称。「課題解決型学習」

国際教育

- グローバル時代の教育のあり方を多角的に分析し、IB教育※2、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESDやグローバル・シティズンシップ教育といったグローバル時代に必要とされている教育に関して深い理解と高い指導力の獲得を目指します。
- 英語教育や海外研修等に特化した国際教育ではなく、日常の教科指導や総合的な学習の時間等において実践可能な国際教育の内容や方法を探究していきます。
- 国際教育の視点から学校全体のカリキュラムをマネジメントできる力を含め、教科や学校種にかかわらず、国際教育を総合的に考え、実践できる教員を育成します。

※2 IB教育：国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）機構が提供する国際的な教育プログラム。

3・グローバル時代の教育に対応できる教員の育成

「国際教育」コースでは、IB（国際バカロレア）教育、グローバル教育、外国人児童生徒の教育、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）といったグローバル教育領域でリーダーシップを発揮できる教員としての資質能力を向上することができます。「国際教育」について専門的に学ぶことができる教職大学院は全国でもめずらしく、将来的には本コースが国際教育の拠点としての機能を果たすことを目指します。

4・3府県の教育委員会との連携及び多様な連携協力校における充実した専門実習の実現

3府県（京都府・滋賀県・大阪府）にまたがるキャンパス立地の強みを活かし、5つの教育委員会（京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会）との連携を通した新しい教員養成を実現します。公立学校と立命館の附属校をあわせて小学校7校、中学校14校、高等学校11校の連携協力校（2021年3月現在）を配置することで、院生の多様な問題関心とマッチングした専門実習を行うことを可能にしています。連携協力校での充実した専門実習（現職教員院生は、原則勤務校での実習）を展開し、「理論と実践の往還・融合」を実現します。

5・小学校、中学校、高等学校すべての学校種に対応した教員の養成

小学校教員の養成を中心とする教職大学院も多い中で、本研究科に開設される主要教科の指導法科目の受講や、他研究科受講制度を利用し専門分野の大学院の科目を受講することによって、教科指導の専門性を高度化することができ、中学校、高等学校の教員養成にも対応しています。
本研究科は複数の教育委員会と連携することで、高等学校の実習先も多く確保しており、高等学校での長期の実習も可能となっています。

理論と実践を往還・融合させるカリキュラム

本研究科では、公立学校と立命館の附属校を含む連携協力校の先進的な実践を活かしながら、教育の現場と大学院での学びを往還させることで「理論と実践の往還・融合」を実現するカリキュラムを編成し、確かな指導理論と実践力の両方を獲得します。
1年次から履修が始まる「教職専門研修」は、学士課程での教育実習とは異なり、連携協力校において、学習指導、生徒指導、学級指導、学校行事への参加、可能な範囲での校務分掌への関わりなど、学校現場での教員の全般的な業務に関わる実習を行います。実務を担う中で見出した課題を大学院の学修と往還させ、本研究科教員の指導のもとで、課題克服の方策を探究することで、高度な実践力を獲得することを目指します。
学部新卒院生は、連携協力校で実習を行い、1年次の夏期休暇を利用した「教職専門研修1」（3単位）、2年次春学期に実施する「教職専門研修2」（7単位）の10単位を履修します。現職教員院生については、本人の申請と審査によって、「教職専門研修」の一部の履修を免除する場合もありますが、「教職専門研修4」（3単位）は、現職教員院生全員が履修します。

実務家教員が語る教職大学院が目指すもの －伸びしろのある教員の養成を目指して－

立命館大学大学院教職研究科 准教授 **小松 茂**

「畳の上で理論書を読んでも、泳げるようにはなれない」。といって「プールにいきなり飛び込んでも、泳げるようにはなれない」。いずれも経験上の真実です。この両者を架橋するのが教職大学院での学びです。教職経験のない学部新卒院生は学校現場での総計１０週間に及ぶ実習とそれを元にした理論的な省察を通して、また、現職教員院生は自己の体験を様々な教育理論を通して再吟味することを通して視野を広げ、教育に関する考察を深めることが可能となります。学びを深めるためには適切な「コーチング」が不可欠ですが、研究者教員と実務家教員のコラボレーションが皆さんを支えます。
一層複雑化する今日の教育現場では、既成の理論や経験則だけでは対応できない課題が山積しています。これらの課題を的確に分析し、解決していくための手がかりと力量を身につけるために、私たちと共に学びを深めていきましょう。意欲的な方々の入学を心から期待しています。

カリキュラム構造

科目区分	共通基本科目（6領域）	専門実習科目	コース科目			
			コース共通科目	コース必修科目（1年次に1コースを選択。選択したコースのうちから8単位を取得する。）		
				臨床教育コース科目	教育方法・学習科学コース科目	国際教育コース科目
修了要件単位配分	20単位以上	10単位	8単位以上	8単位	8単位	8単位
	46単位以上		（現職教員院生で専門実習科目の一部を免除された者は、免除された単位数を修了に必要な単位数から減じる。）			

共通基本科目一覧

学校現場の教育課題を包括的・体系的に理解し、教員としての高度な力量形成にとっての基盤をなす科目群です。教育課程、教科指導、生徒指導、学級・学校マネジメント、現代の学校と教師などについて幅広く学びます。本研究科では共通基本科目に独自領域として「国際教育に関する領域」を設けており、グローバル化が進む教育現場に対応できる力を獲得することができます。

第1領域：教育課程の編成・実施に関する領域
- カリキュラムデザインの理論と方法

第２領域：教科等の実践的な指導方法に関する領域
- 授業デザインの理論と方法
- 教育方法・学習科学の理論と実践

第３領域：生徒指導、教育相談に関する領域
- 臨床教育の理論と方法
- 生徒指導・教育相談実践演習

第４領域：学級経営、学校経営に関する領域
- 学校マネジメントの理論と実践
- 特色ある学校づくりの実際と課題
- 学級づくり実践演習

第５領域：学校教育と教員の在り方に関する領域
- 現代の学校と教育実践
- 現代の教師と教育実践

第６領域（独自領域）：国際教育に関する領域
- 国際教育の理論と方法

長期間の実習で、教科指導、生徒指導、学級経営等の実務に関わることによって、実践的な指導力の獲得を目指します。学校現場での体験にとどまらず、共通基本科目やコース科目で学修した理論知を実践化する方法や実習で得た実践知を理論化する方法も学びます。実習は、連携している5つの教育委員会（京都府教育委員会、京都市教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会）の協力のもと、連携機関内の公立小学校、中学校、高等学校に、立命館の附属校を加えた連携協力校で実施します。

専門実習科目一覧

- 教職専門研修１
- 教職専門研修２
- 教職専門研修３
- 教職専門研修４

コース科目は、「コース共通科目」と「コース必修科目」に区分して配置された科目です。本研究科では「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」と3つのコース（履修モデル）を設けていますが、コースの学修だけではなく教員としての総合的な資質能力を向上させることを目指し、どのコースの院生にも履修が望まれる「コース共通科目」と選択したコースの内容を深める「コース必修科目」を配置しています。
「コース必修科目」は、院生の問題関心やニーズに応じるため、他コースの科目の受講も可能としていますが、修了に必要な単位数には含みません。

コース科目一覧

コース共通科目
- 教育実践高度化演習１※
- 教育実践高度化演習２※
- 学校内外の連携による児童生徒支援
- 人間理解・対人援助の理論と方法
- 道徳教育の理論と課題
- 小学校英語教育実践研究
- キャリア教育の理論と実践
- 学力の理論と評価の実際
- 外国人児童・生徒支援論
- 実践教育特殊講義
- 国語科教育実践研究
- 算数・数学科教育実践研究
- 社会科教育実践研究
- 英語科教育実践研究
- 理科教育実践研究
- 保健体育科教育実践研究

コース必修科目

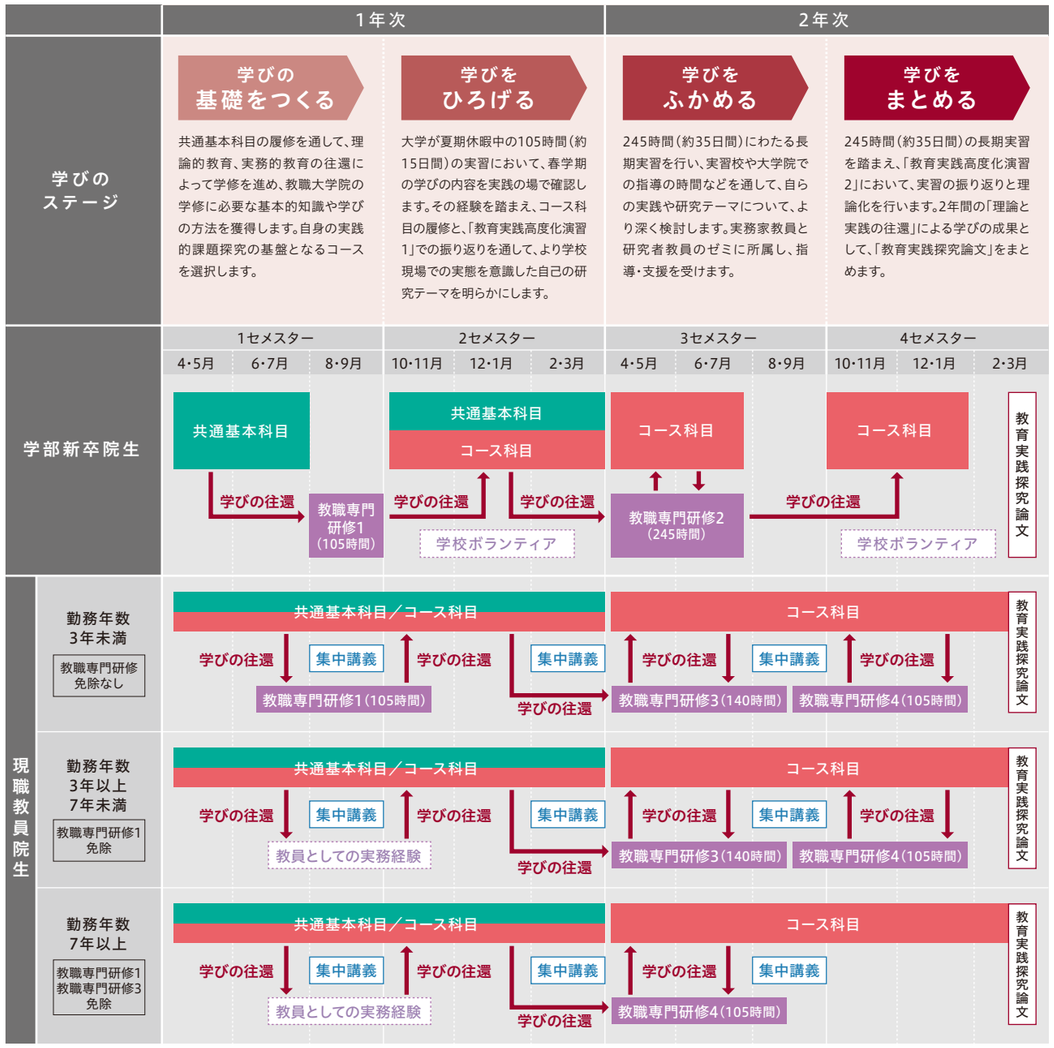
臨床教育コース科目
- 学校におけるメンタルヘルスの理論と実際
- 学校教育相談・学校カウンセリングの理論と方法
- 問題行動とその対応
- ピア・サポートによる生徒支援の実際と課題

教育方法・学習科学コース科目
- 学習意欲の理論と実際
- 授業におけるICT活用
- 新しい教育内容の実践と課題
- 授業実践の高度化と授業研究

国際教育コース科目
- 世界の子どもと教育支援
- グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題
- 国際交流プログラムデザインの理論と方法
- IB教育の理論と実践

※コース共通科目のうち「教育実践高度化演習1」、「教育実践高度化演習2」は必修科目です。

2年間の履修イメージ



時間割イメージ

	月	火	水	木	金
1時限目［09:00～10:30］	フィールドワーク、学校ボランティアなど（連携協力校などの学校）				
2時限目［10:40～12:10］					
3時限目［13:00～14:30］					
4時限目［14:40～16:10］	移動				
5時限目［16:20～17:50］	共通基本科目、コース科目の履修（大学院）				
6時限目［18:30～20:00］					

教職研究科では午前中は各講義でのフィールドワークなどを行う時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目（18:30開始）に開講されるよう時間割を編成しています。

「教員コラム」より

教員コラムとは？

教職研究科では、「子ども・教育・学校を語る」と題して、教員がリレー式で月に1回コラムを書いています。興味深い内容となっていますので、ぜひご覧ください！

掲載場所
教職研究科HP ＞ NEWS & TOPICS ＞【教員コラム】子ども・教育・学校を語る

研究科HP NEWS＆TOPICS

二人の先生に以下で教員コラムに込められた意味を語っていただきました。

道徳の基盤と自粛警察 ～コロナ禍で見えてくる私たちの価値観～

教職研究科教授 **荒木 寿友**（教育方法学）

「自粛警察」という言葉が一時期世間を賑わせました。なぜ自粛警察のような行動に駆られる人々がいるのでしょうか。たとえばアメリカの心理学者ハイトは、人間は直感的に判断し、後付けで理由を考える「社会的直感モデル」を提唱しました。その直感には6つの基盤があって、「ケア」や「公正」、「自由」を直感的に選択する人もいれば、「忠誠」や「権威」、「神聖さ」を直感的に選択する人がいることを明らかにしました。他者に自粛を強制する人は、みんなが自粛しているのに、それを裏切っている（忠誠心のなさ）ことに直感的に嫌気を感じたり、あるいはウィルスそのものに対する忌避（神聖さを汚す）が過剰にあるのかもしれません。

私が担当している「道徳教育の理論と課題」では、上記のハイトだけではなく、なぜ道徳が生まれてきたのかという「道徳の源泉」について学ぶところから始まります。そもそも人間がどういった特質を持っているかといったことを明らかにしないと、教育については考えにくいからです。その上で、日本の道徳教育や道徳の授業が何を目指しているのか、授業づくりはどうすればいいのか、そして実際の授業づくりや道徳科の評価について実践を踏まえながら学んでいきます。

良い文章って何？？

教職研究科教授 **井上 雅彦**（国語教育学）

教員コラムでは、私が小学校2年生の時に書いた作文と、新聞に投稿された2年生の文章を比較して、どちらが良い文章かと問いかけました。私の作文は飾って書く意識など少しも感じられず、自分の経験を感受性豊かに綴っています。一方、新聞に投稿された作文は様々な技術を用いて理路整然と書かれた達意の文章です。皆さんはどちらを良い文章だと考えられるでしょうか？

この違いは、私が小学生だった頃と現在との作文指導の影響が色濃く出ています。当時は「ありのままのこと」を「ありのままに」書くなかで現実認識を育てようとする生活綴り方の影響が残っていました。現在は、学習指導要領に即して文章表現能力の育成に重点を置く作文教育が主流となっています。教師の作文観が指導方法に影響を与え、評価も変えます。

教職研究科の「教育実践高度化演習」や「○○科教育実践研究」の授業では、各教科の指導法や評価等について学び、研究する事ができます。学部の学びを更に深めたい人は、ぜひ進学を考えてみてください。

院生・修了生からのメッセージ（取材は2020年度時点のもの）

森田 菜月さん

教育方法・学習科学コース　2年次生

私は、大学3年生の教育実習で担当した生徒の「算数は好きだったけど、数学は苦手」という言葉に引っかかり、授業づくりを始めとする、算数・数学教育をより深く研究するため、本研究科の教育方法・学習科学コースを志望しました。私は現在、教職大学院生講師として小学校の算数専科を担当しています。学業と勤務の両立は大変ですが、授業で学んだことをすぐに現場で実践でき、日々成長を感じています。また反対に、実践での経験を理論と結びつけることで授業改善ができ、「理論と実践の往還」ができることもとても魅力的です。理論を学ぶことで、以前よりも視野を広く持つことができ、授業づくりに活かせることはもちろん、理論という根拠があるため発言にも説得力が増します。現場に出てからも教職大学院での研究を継続し、子どもたちに確かな学力が身につくような授業づくり等を、他教員にも発信できる教員になりたいと思っています。教員の成長は子どもの成長です。一緒に素敵な教員を目指しましょう！

荻野 奈々子さん

教育方法・学習科学コース　2021年3月修了
愛知県立高等学校教員

私が「教員になろう！」と決意したのは、教育実習を終えた4回生の夏でした。そこで自身の力不足を感じ、改めて教育について勉強したいと思い、本研究科を志望しました。教職研究科に入学してよかったと感じているのは、教育に対する様々な見方を学ぶことができたことです。その中でも特に現場での研修において、校務分掌、学年団、職員会議など多岐にわたる仕事に携わり、それぞれの仕事が絡み合い、チームとして学校が成り立っていることを経験的に学べたことが印象に残っています。これから私は、生徒が自分の「軸」を持つことができるよう、人との関わりを大切にしたチームでの教育実践を行える教員になりたいと考えています。教員の0年生として、同じ志を持つ仲間と共にレベルアップしてみませんか？

濱﨑 洋子さん

臨床教育コース　2021年3月修了
長期履修制度を利用して在学
宇治市立中学校教員

長年教職に就いて経験だけでは乗り切れないと感じることが増えました。このままでよいのだろうかという思いと、教員生活の集大成、この二つが入学を決意した理由です。長期履修生として勤務しながら大学院に通う、しかも入学時は勤務校で中学３年生の主任となり、両立できるか不安でした。しかし、「一緒に頑張りましょう！」と声をかけ、励ましてくれる学部新卒院生、現職教員院生がいつも周りにいました。支えてくれた皆に感謝しています。志を共にし、高め合える仲間、温かく見守ってくださる先生方、新しい学問に触れる喜びは大学院で得たかけがえのない宝です。仕事を終えての講義は大変ですが、学んだことは目の前の子どもに必ず返っていきます。理論を実践に結びつけられるのが現職教員院生の強みです。救われる子どもがたくさんいます。生きた成果を実感し、教師の成長＝生徒の成長につながる貴重な経験を一緒に味わいましょう。

鈴木 拓資さん

教育方法・学習科学コース　2019年3月修了
京都府立高等学校教員

私には、自分の中にある問いを解決したいという思いがありました。目標とする理想があり、その差分を埋めるための環境を求めた結果、理論と実践の往還のなかで自分を高めることができる教職大学院を選びました。いま実際に教育現場で働く中で、大学院で学んだ「成果につながるよりよい方法を求め続け、振り返りながら進む姿勢」を大事にしています。日々、さまざまな課題に直面していると、たくさんの「問い」が生まれます。それらの問いに対する解決の糸口となるのが、学習科学や教育方法、授業デザインなど教職研究科で得た学びです。当然、学んだ通りに実践しても、失敗することはあります。しかし、そこから猛反省し、試行錯誤を繰り返し、問いを一つずつ解決できたときは、爽快です。何か目標があるのであれば、教職大学院の環境と時間は、その達成に向けて背中を押してくれます。自ら行動を起こし、たくさんの知恵や体験と出会ってください。応援しています。

8 12 16 20 24

① 8:30〜12:30 **教職大学院生講師として勤務**　立命館小学校（附属校）
小学校5，6年生の算数専科として勤務しています。
5，6年生は教科担任制のため、公立校以上に各教科の専門性が問われます。高い授業力を持つ先生方のご指導の下、日々授業実践を重ねています。

② 14:40〜17:50 **大学院の授業（4，5時限）**　朱雀キャンパス
午前中の勤務が終わると、大学院に移動し、授業に出席します。
校種や専門教科に分かれてのディスカッションや、プレゼンテーションをすることもあります。

③ 17:50〜18:30 **休憩時間**　朱雀キャンパス
5時限目と6時限目の間に40分の空き時間があるので、次の授業の準備をしたり、軽食を取ります。
院生同士で4，5時限の授業の振り返りをすることもあります。

④ 18:30〜20:00 **大学院の授業（6時限）**　朱雀キャンパス
教職研究科では、現職教員も一緒に授業を受けているため、現場で実際に起こったことを交えたお話が聞けることは貴重な経験です。

⑤ 22:00〜 **予習、復習、課題と教材研究**　自宅
教職研究科の課題や、教育実践探究論文作成のための文献を読み、課題に取り組みます。
院生講師の授業準備は勤務時間や土日にまとめて行っているため、授業前日の夜は流れをイメージします。予定している展開でうまく流れるか、子どもの思考を引き出せるかを確認します。

8 12 16 20 24

① 9:00〜12:00 **フィールドワーク**　附属校、公立学校など
学校や施設を実際に見学するフィールドワークでは、経験を通して学びを得ることができます。また、実践されている特色ある授業や取り組みからたくさんの刺激をもらいます。

② 13:00〜16:10 **空き時間を有効活用**　大学院
授業前の空き時間は、他の院生たちと話し合いながら、フィールドワークを振り返ったり、課題を進めたりしています。

③ 16:20〜20:00 **大学院の授業**　大学院
フィールドワークでの学びを共有したり、経験的な学びを理論的に捉え直したりします。また、学部新卒院生・現職教員院生混合のグループでディスカッションを行う中で、物事に対する新たな見方を発見することができます。

④ 20:30〜22:30 **授業の課題と教育実践探究論文**　大学院
今日一日の学びを振り返りながら、授業課題に取り組みます。探究論文執筆のために、研究に係る本や論文を読み、論文の構想を練っている時もあります。

⑤ 23:00〜 **趣味の時間**　自宅
家に帰ってきたら、本や動画を見るなど気分転換をし、自分の時間を楽しんでいます。明日の授業に向けてしっかり休みます。

8 12 16 20 24

① 8:30〜17:30 **授業、清掃、部活動、学年会、生徒指導**　勤務校
授業は生徒とのふれあいの場、豊かな感性から学ぶことも多いです。
清掃は授業ではわからない生徒の一面を発見でき、一生懸命取り組む姿に心が洗われます。学年会では先生方と共通理解を図っています。よりよく生きる成長を促す生徒指導は生徒に関わる大切な教育活動です。
部活動は生徒が一番輝くとき、笑顔はパワーの源です。

② 18:00〜20:30 **大学院の授業、図書館で自習**　大学院、図書館
大学院の講義はすべてが「学び」。特にグループワークは現職同士、学部新卒院生との貴重な交流の場です。新たな視点に刺激を受け、実践に役立っています。また、講義が終わってから図書館に行くこともあります。

③ 22:00〜24:00 **帰宅、レポート作成**　自宅
明日の仕事の予定をチェック。しばらく休んで宿題のレポートに取り組みます。いつも締め切り間際の提出ですが、完成した後は大きな達成感が得られます。

8 12 16 20 24

① 8:30〜8:40 **職員朝会**
その日の流れや重要な連絡事項などを教職員全体で確認します。
担任不在の時は、副担任として朝のSHRに行きます。

② 8:55〜16:20 **授業・分掌業務**
いつも事前に授業の流れや目的などをA４用紙１枚にまとめています。授業後は、うまくいかなかったところを振り返り、次の授業をつくります。授業がない空きコマは、分掌（学校広報・企画部）や部活動の仕事を進めています。この時間帯は、緊急な依頼や対応等が頻繁に入ってくるので臨機応変に動いています。

③ 17:00〜19:00 **部活動（陸上競技部）**
全体集合した後、自分が提案したトレーニングメニューに沿って練習が始まります。日々、チームマネジメントの難しさを痛感しながら、トレーニングの目的や動きの修正などを指導しています。

④ 19:00〜20:00 **分掌業務**
部活動後の時間帯は、緊急な仕事はないため、その日に完了できなかった仕事をやり終えます。

⑤ 21:00〜 **読書・明日のスケジュール確認**
次の日のスケジュール確認とやることをリストアップしています。
残りは読書やプライベートな時間を過ごします。

授業を受けた院生の声

学校現場での長期研修では、学部時代の教育実習だけではわからなかった校務分掌や学校運営に関わることができ、有意義でした。

重要と思いつつ、これまで教育法規をたどることは難しく感じ、避けていました。しかし、その目的を丁寧に、また多くの資料を配布いただいたことは、私の今後の貴重な財産となりました。

アットホームな雰囲気で、自由に議論ができる授業でした。広い視点から教育をとらえる機会を頂き、感謝しています。改めて、教職大学院で学ぶ必要性を感じました。

教師になるにあたって、これまで漠然とした課題意識を持っていましたが、教職大学院で学ぶことにより、それが明確になり、目標を達成するための方法が明らかになりました。

キャリア教育が選択や決定だけでなく、人生、生き方を築いていくために必要な教育なのだと実感できる授業でした。
今後の大学院での学び、現場での実践だけでなく、自分自身を振り返ったり問い直したりする大変貴重な機会であったと思いました。

学校現場からはなれる不安がものすごくあったのですが、現場にいたら学べなかったことをたくさん知ることができました。時間が過ぎていく中で立ち止まらなければ気付かなかったことが、授業の中でいろいろとありました。

Q&A

Q1 教職研究科の時間割について教えてください。

A 教職研究科では午前中を各講義でのフィールドワークの時間とし、午後を中心に講義を開講しています。また、長期履修制度によって学修する現職教員院生のために3年に一度は必ず必修科目が6時限目に開講されるよう時間割を編成しています。

Q2 現職教員院生も学校での実習をするのですか。

A 現職教員院生も学校での実習を行います。ただし、一定期間の実務経験のある現職教員院生については本人の申請と教職研究科での審査を経て「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。
詳細はP.16「現職教員院生へのサポート」もご覧ください。

Q3 入試の前に説明会や授業見学に参加したいのですが。

A 教職研究科の説明会、授業見学については開催日が確定次第教職研究科のHPでご案内していますのでぜひご参加ください。

Q4 研究者教員と実務家教員とはどのような役割をもつ先生ですか。

A 実務家教員とは学校現場等での実務経験があり、高い実績のある教員です。研究者教員とは研究分野を専門的に指導する教員です。研究者教員と実務家教員によるチームティーチングや実習での訪問指導により、理論と実践の往還がより確実なものとなり、教員としての実践的な力量を確実に身につけていくことができます。

Q5 入試の過去問題を見ることはできますか。

A 閲覧できます（筆記試験の問題のみ）。大学院入試情報サイト（http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/question.html/）や立命館大学朱雀キャンパスの朱雀独立研究科事務室および各キャンパスの大学院課の窓口で閲覧することができます。

Q6 教育職員免許状がなくても教職研究科に入学できますか。

A 本学教職研究科では、学校種・教科を問わず、いずれかの教育職員免許状一種を取得していることが入学の条件となります。そのため教育職員免許状一種をお持ちでない場合は入学することができません。

教員紹介

教職研究科の専任教員

教 授 | **荒木 寿友**

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「現代の学校と教育実践」、「道徳教育の理論と課題」、「世界の子どもと教育支援」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

教育方法、カリキュラム開発の観点から、国内においては主として道徳教育やワークショップ、ファシリテーションの研究、国外においてはミャンマーにおいて教員養成の研究実践活動を行っています。またリフレクションによって教師自身が教育実践や在り方を再構築していこうとする教師教育の研究活動も行っています。

教 授 | **伊田 勝憲**

担当科目

「生徒指導・教育相談実践演習」、「問題行動とその対応」、「学級づくり実践演習」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

臨床教育学・教育心理学の視点から、学習内容への主観的な価値づけと学習者自身のアイデンティティ形成との関係について研究しています。最近は、いじめ重大事態の未然防止等、教育と法律・医療・福祉が交わるテーマにも関心を広げ、共生社会の実現に向けて、学校・教師に期待されるこれからの日常的教育活動の姿を探っています。

准教授 | **伊藤 陽一**

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「学級づくり実践演習」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

チームとして機能する学校組織を創るためには、どのように学校経営・マネジメントしていくのか。その柱となるカリキュラム・マネジメントを土台として、授業改善（AL）・「学級づくり」について研究しています。特に新学習指導要領のポイントをおさえ、小学校社会科・特別活動・総合的な学習の時間について研究を進めています。

教 授 | **井上 雅彦**（副研究科長）

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「国語科教育実践研究」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

言語による伝え合いを重視した国語科授業及びカリキュラムをどのように構想するのか。その際、学習者の学びをいかに評価するのか。また、教科に関わらず言語活動を充実させた授業（アクティブ・ラーニング）のあり方について、さらに力量ある国語科教員を育てるための教員養成カリキュラムについて研究しています。

教 授 | **春日井 敏之**

担当科目

「臨床教育の理論と方法」、「現代の学校と教育実践」、「現代の教師と教育実践」、「学校教育相談・学校カウンセリングの理論と方法」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

いじめ、不登校、発達障害、児童虐待等、教育・子育てを巡る課題に対して、実践と研究の融合を図り、担い手の育成や支援を進めていく必要があります。私は、いじめ、不登校・ひきこもりへの指導・支援を切り口に、子ども理解を土台にして、「思春期の人格発達と支援」「学校教育相談と開発的カウンセリング」「教師の自己形成・自己変容」をテーマに、教育・研究・実践を進めています。

准教授 | **加藤 敦史**

担当科目

「授業デザインの理論と方法」、「社会科教育実践研究」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

優れた授業とはなにか。知的好奇心を興す授業とはどのようなものか。さらには空間、歴史、社会認識とはなにか。このような高度で専門的な授業をつくるために、カリキュラム設計、シラバス設計、教授法、評価法などをもとに授業デザインの方法論を研究しています。社会科の教材開発も研究しています。

准教授 | **後藤 文男**

担当科目

「教育方法・学習科学の理論と実践」、「特色ある学校づくりの実際と課題」、「現代の教師と教育実践」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

「論理的思考力」育成のための国語授業の指導法、教材開発及び「白川文字学に基づいた漢字教育」の実践的研究に取り組んでいます。また、教員の教育力向上に向けての学校内での「教育研究活動」のありかたについての研究にも取り組んでいます。

准教授 | **小松 茂**

担当科目

「生徒指導・教育相談実践演習」、「学校マネジメントの理論と実践」、「現代の学校と教育実践」、「現代の教師と教育実践」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

「教員の専門性」とはどのような構造をもつものなのか、またそれらはいかにして形成され伝承され得るのかという関心の下に、教員養成・研修の手法及びプログラムについて研究しています。最近は、F.Korthagen（ユトレヒト大学名誉教授）氏を中心とするリアリスティック・アプローチの考え方を、日本の大学院における教員養成のなかで具現化する方法を追求しています。

准教授 | **澤 由紀子**

担当科目

「学校マネジメントの理論と実践」、「現代の学校と教育実践」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

これからの社会で求められる資質能力を育てることが学校教育の急務である中、どの校種においてもチーム学校としての組織力の向上が求められ、教員の人材育成は不可欠となっています。改めて学校組織を人材育成の場と考え、教職のあり方を「個業と協業」という観点から整理し、成長できる組織のあり方を探りたいと思っています。

教 授 | **神藤 貴昭**

担当科目

「教育方法・学習科学の理論と実践」、「学校におけるメンタルヘルスの理論と実際」、「学習意欲の理論と実際」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

学業や仕事において生じる様々な心理学的事象に興味を持っています。具体的には、児童生徒や教師、さらには企業勤務者における、心理的ストレスや動機づけ、メンタリングの効果といったことについて研究をしています。また、教育場面での相互行為による、ものの見方や感じ方の変容に関する研究にも取り組んでいます。

准教授 | **田中 博**

担当科目

「カリキュラムデザインの理論と方法」、「国際教育の理論と方法」、「算数・数学科教育実践研究」、「授業実践の高度化と授業研究」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

立命館の附属校で長年の教員生活を送ってきました。教科は数学です。スーパーサイエンスハイスクール事業に深く関わってきた経験から、「国際科学教育」を研究分野としています。立命館が持つ、豊富な国際教育手法を多くの先生方に学んでいただき、世界の舞台で活躍する子ども達の輩出につながってくれればと願っています。

教 授 | **菱田 準子**

担当科目

「臨床教育の理論と方法」、「特色ある学校づくりの実際と課題」、「ピア・サポートによる生徒支援の実際と課題」、「教育実践高度化演習2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

新しい学習指導要領では、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」が柱の1つとなっています。虐待を受けている子どもたちをはじめ、全ての子どもたちが幸せな人生を送る主体者となれるよう、学校教育や学校組織のあり方をポジティブ心理学やピア・サポートの理念・実践を通して追求していきます。

教 授 | **森田 真樹**（研究科長）

担当科目

「現代の学校と教育実践」、「国際教育の理論と方法」、「実践教育特殊講義」、「新しい教育内容の実践と課題」、「グローバル・シティズンシップ教育の構想と課題」、「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

グローバル時代の学校教育や市民形成は、どうあるべきで、どのような方法で実施することが望ましいのかについて、アメリカ合衆国の社会科教育、グローバル教育、多文化教育及び日本の国際理解教育などの分析を通して研究しています。また、私立大学を中心とする一般大学や大学院における教師教育のあり方についても研究を進めています。

教 授 | **山岡 雅博**

担当科目

「生徒指導・教育相談実践演習」、「実践教育特殊講義」「教育実践高度化演習1・2」、「教職専門研修1～4」

研究内容

「いじめ」「不登校」「暴力行為」などの問題行動は減る兆しが見られません。これは社会問題であると同時に、当事者の子どもたちにとっては、かけがえのない子ども時代のつらい経験でしかありません。彼らを支え、育てる「指導」や「教師」に関する実践的な方法・理論を確立し、本質的な原因を探ることを目指しています。

教職研究科 授業担当教員

教 授 | **大友 智**（スポーツ健康科学部）

担当科目

「保健体育科教育実践研究」

教 授 | **清田 淳子**（文学部）

担当科目

「外国人児童・生徒支援論」

教 授 | **中村 健**（経済学部）

担当科目

「学校内外の連携による児童生徒支援」

教 授 | **中村 正**（産業社会学部）

担当科目

「人間理解・対人援助の理論と方法」

教 授 | **山下 芳樹**（産業社会学部）

担当科目

「理科教育実践研究」

教 授 | **湯川 笑子**（文学部）

担当科目

「小学校英語教育実践研究」
「英語科教育実践研究」

授業担当講師 | **石井 英真**

京都大学大学院教育学研究科　准教授

担当科目

「学力の理論と評価の実際」

授業担当講師 | **井上 志音**

灘中学校・灘高等学校　教諭
日本国際バカロレア教育学会　理事

担当科目

「ＩＢ教育の理論と実践」

授業担当講師 | **尾崎 拓郎**

大阪教育大学 理数情報教育系・
情報基盤センター　准教授

担当科目

「授業におけるＩＣＴ活用」

授業担当講師 | **藤原 孝章**

同志社女子大学現代社会学部　特任教授

担当科目

「国際交流プログラムデザインの
理論と方法」

授業担当講師 | **三川 俊樹**

追手門学院大学心理学部　教授

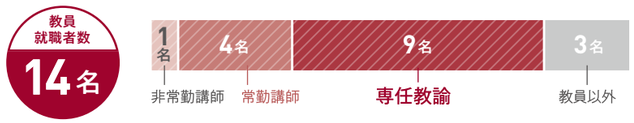
担当科目

「キャリア教育の理論と実践」

進路状況

教員採用に確かな実績があります!

▶ 2020年度修了者の内訳（学部新卒院生17名）



▶ 2019年度修了者の内訳（学部新卒院生26名）

▶ 2018年度修了者の内訳（学部新卒院生21名）

◆採用先の主な自治体

2020年度修了者
京都府、京都市、草津市、長野県、神奈川県、横浜市、愛知県、岐阜県、福岡県

2019年度修了者
京都府、大阪府、大阪市、兵庫県、札幌市、神奈川県、静岡県、岐阜県、石川県、福岡県、その他全国の私立学校

2018年度修了者
京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市、兵庫県、和歌山県、神奈川県、岐阜県、栃木県、その他全国の私立学校

◆校種

2020年度修了者
中学校（6名）、高等学校（7名）、中高一貫校（1名）

2019年度修了者
小学校（2名）、中学校（12名）、高等学校（5名）、中高一貫校（6名）

2018年度修了者
小学校（3名）、中学校（9名）、高等学校（7名）、中高一貫校（2名）

就職のサポート

充実した教員採用試験対策を行います!

本研究科では学校現場に精通している実務家教員が中心となって、教員採用試験に向けて、きめ細かい進路指導・相談を行っています。また、教職研究科教員全員が、院生の自主ゼミをバックアップするなど教員採用試験に向けた準備を支援しています。
その他にも、立命館大学の教職支援センターでは、教職を志望する学生に教員採用試験対策講座を実施しており、教職研究科の院生も受講することができます。
さらに、教員採用試験では、教職大学院の院生を対象にした推薦制度を設けている自治体もあり、1次選考試験免除などの優遇措置を受けることもできます。このような教職研究科の豊かな教育資源を活用し、教員になる夢を叶えましょう。

▶ 教職研究科で取得できる教育職員免許状の種類

- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状　国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教
- 高等学校教諭専修免許状　国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教

※専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。

現職教員院生へのサポート

立命館大学教職大学院は、働きながらの学びをサポートする大学院です。

大学院で学びたいが、勤務を離れることもできないという悩みを持っている現職教員も多いと思います。そのような現職教員が、勤務をしながら大学院に進学することができるよう、通学に便利な「朱雀キャンパス」で教職研究科を開設しているほか、学修面においても、現職教員院生の方が学びやすい環境を整備しています。

▶ 長期履修制度

長期履修制度とは、在学中に職業を有することにより、学修・研究時間を充分に取ることができず標準修業年限で修了することが困難な場合、標準修業年限（2年）を超え、在学年限（4年）の範囲内の期間において計画的に教育課程を履修することを目的とした制度です。入学前の事前申請によって長期履修制度を活用することで、2年間の学費で、3年または4年間学ぶことができます。

▶ 授業時間割における工夫

授業は、平日の夜間時間帯や休暇中の集中講義期間にも開講しています。長期履修制度を活用する現職教員院生のために、3年間で科目がローテーションする時間割を編成しており、3年に一度は、必ず夜間時間帯に必修科目・選択科目が開講されるよう工夫をしています。長期履修制度を活用すれば、夜間時間帯の開講科目のみの履修によって3年間で修了することができます。また、教職研究科のみ夜間時間帯（6時限目）を18:30～20:00とするなど、現職教員院生の履修に配慮しています。

▶「教職専門研修」の履修に関する特例

一定期間の実務経験のある現職教員院生については、本人の申請と教職研究科での審査を経て、「教職専門研修」の一部の履修が免除されます。一部が免除される場合でも、勤務の中で見出した課題を大学院の学修と往還させ、教職研究科専任教員の指導のもとで、課題克服の方策を探究することで、高度な実践力を獲得することができます。なお、現職教員院生の「教職専門研修」（専門実習）は、勤務校での実施を基本としていますが、受け入れが可能な場合には、立命館の附属校などでも実施することができます。

教員の勤務経験年数	単位免除科目（単位数）	履修が必要な科目（単位数）
3年未満	なし	教職専門研修1（3単位）、教職専門研修3（4単位）、教職専門研修4（3単位）
3年以上7年未満	教職専門研修1（3単位）	教職専門研修3（4単位）、教職専門研修4（3単位）
7年以上	教職専門研修1（3単位）、教職専門研修3（4単位）	教職専門研修4（3単位）

※免除された単位数は修了に必要な単位数から減じます。

▶ 夜間時間帯でも利用しやすい学修環境

朱雀キャンパスの「リサーチライブラリー」（図書館）は、日曜日や大学の休暇期間を除いて9時から22時まで開館しています。本学の他キャンパス図書館の蔵書も「リサーチライブラリー」に取り寄せて利用することができます。また「院生自習室」やＰＣ、最新のＩＣＴ機器を整備した「教職研究科共同研究室」などの学修スペースも夜間時間帯まで利用することができますので、大学院での授業終了後もキャンパス内で学修することができます。

▶ 多彩な現職教員院生や学部新卒院生との学び合い

他の教職大学院にはない特色の1つは、京都府、京都市、滋賀県、大阪府、大阪市の各教育委員会、立命館の附属５校の連携協力によって設置されていることにあります。現職教員院生といっても、学校種や教科のみならず、勤務している自治体なども多様であるため、普段では、あまり接点を持つことができない現職教員と共に学ぶことができます。また、本研究科では、多彩な院生同士のピア・サポートを重視しており、様々な問題関心をもった現職教員院生と学部新卒院生との学び合いを通して、自らの課題を探究することができます。

教職研究科 概要

研究科名	教職研究科
専攻名	実践教育専攻
入学定員	35名
収容定員	70名
学位名称	教職修士（専門職）
専任教員数	14名（研究者教員7名、実務家教員7名）

入試情報・学費・奨学金制度

入試日程と入試方式

実施月	出願期間	試験日	入試方式
9月 入学試験	2021年 8月 4日（水）～ 8月25日（水）	2021年 9月12日（日）	一般入学試験 社会人入学試験 学内進学入学試験
11月 入学試験	2021年10月20日（水）～11月 4日（木）	2021年11月21日（日）	
2月 入学試験	2022年 1月 5日（水）～ 1月19日（水）	2022年 2月 6日（日）	

※入試に関する情報の詳細は、必ず入学試験要項および立命館大学大学院入試情報サイトで確認してください。
なお、入学試験要項は立命館大学大学院入試情報サイト（http://www.ritsumei.ac.jp/gr/exam/point.html/）よりダウンロードができます。
※上記の方式以外に立命館大学大学院教職研究科の協定校の学生を対象とした協定校入試を行います（9月、11月のみ実施）。

学費

	1年次		2年次
	立命館大学または 立命館アジア太平洋大学出身者	他大学出身者	
入学金	なし	200,000円	なし
授業料（春学期）	456,300円	456,300円	456,300円
授業料（秋学期）	456,300円	456,300円	456,300円
計	912,600円	1,112,600円	912,600円

（2021年4月現在）

奨学金制度

● 立命館大学大学院1年次対象成績優秀者奨学金

教職研究科で実施する入学試験の合格者のうち、成績優秀者に給付します。支給対象者には入学試験の合否発表時に通知します。

● 立命館大学大学院2年次対象成績優秀者奨学金

教職研究科の2年次（第3セメスター）在学生のうち、成績優秀者を対象に選考の上給付します。

学修環境

二条駅に隣接する朱雀キャンパスは、学びの拠点であると同時に生活の拠点でもあります。
自習室では院生にキャレル（個人学習ができるブース）が用意されており、キャンパスでの1日はそこから始まります。

教室・ゼミ教室

教職研究科の学生が全員で授業を受けられる大教室からコースごとの授業を行う小教室まで授業形態に合わせた教室となっています。小教室には、大型ディスプレイを設置しており模擬授業や、実習の報告会等を行う際に活用することができます。

院生自習室

院生専用の自習室を設置し、静寂な環境の中で学修を進めることができます。

朱雀リサーチライブラリー

教育学、心理学をはじめ、学修に必要な図書や雑誌が配架されており、整った環境での自習が可能です。

教職研究科共同研究室

教職研究科専用の共同研究室です。PCや各種の学校用教科書等を整備しています。グループワークを実施したり、院生と教員が共に話し合うことができます。

教職研究科デジタルラボ

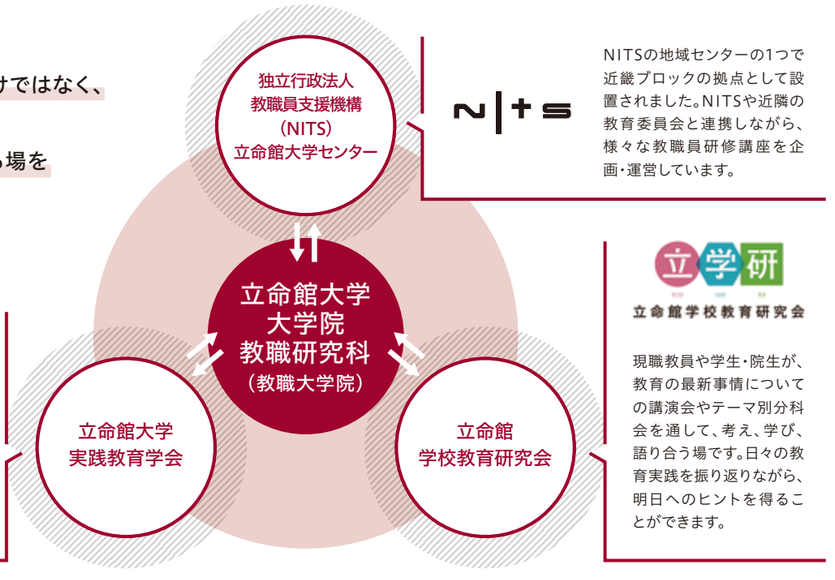
オンライン・コンテンツの撮影や編集、配信などができ、また電子ホワイトボードやBIGPADを整備しており、ICT教育の実践を行うことができます。

生協ラウンジ

生協ラウンジに隣接するショップコーナーでは食料品、文房具、書籍等を販売しています。

修了後の継続支援について

立命館大学では
教職研究科在学中だけではなく、
修了後も学び続け、
理論と実践を往還する場を
提供しています。



NITSの地域センターの1つで近畿ブロックの拠点として設置されました。NITSや近隣の教育委員会と連携しながら、様々な教職員研修講座を企画・運営しています。

教職研究科の教員や修了生が中心に運営している学会で、研究大会には誰でも参加できます。大学内外で教職に関わり教育・研究・実践に携わっておられる方々と共に、幅広くつながりながら実践研究、交流を深めていきます。

立命館学校教育研究会

現職教員や学生・院生が、教育の最新事情についての講演会やテーマ別分科会を通して、考え、学び、語り合う場です。日々の教育実践を振り返りながら、明日へのヒントを得ることができます。

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

立命館大学大学院
教職研究科
(教職大学院)

[お問い合わせ先]
立命館大学朱雀独立研究科事務室（教職研究科担当）
〒604-8520
京都市中京区西ノ京朱雀町1 立命館大学朱雀キャンパス

TEL 075-813-8269
Email kyoken-s@st.ritsumei.ac.jp

最新情報はホームページで CHECK!

- 立命館大学大学院教職研究科ホームページ
  http://www.ritsumei.ac.jp/gspte/
- 立命館大学大学院入試情報サイト
  http://www.ritsumei.ac.jp/gr/

[アクセス]

最寄り駅

- JR山陰本線「二条」駅下車 ―――― 徒歩 約2分
- 京都市営地下鉄東西線「二条」駅下車 ―― 徒歩 約2分
- 阪急「大宮」駅下車 ―――― 徒歩 約10分

所要時間

JR 大阪 ―東海道本線 約30分― 京都 ―山陰本線 約6分― 二条 ―徒歩 約2分― 朱雀キャンパス

阪急 大阪梅田 ―京都本線 約40分― 大宮 ―徒歩 約10分― 朱雀キャンパス

パンフレットに掲載されている内容は
2021年4月時点のものです。